

5. 人にやる気・村に活気・地域づくり学習会 研修旅行 Part4 に参加して

松本大学総合経営学部 1 期卒業生 赤羽 明恵

平成 18 年 9 月 1 日、2 日三重県多気郡多気町へ向かった研修旅行に参加させていただいた。私にとって初めての研修旅行であったが、多くの出会いに恵まれ、さまざまなことを学ぶことができ、大変充実した一泊二日であった。

一日目はあいにくの天候ではあったが、松本を出発したバスは農業法人せいわの里「まめや」に向かった。そこは地元農家の主婦の皆さんが運営するコミュニティビジネスの食事処で、麦の後作として栽培されている大豆と加工品料理を昼食にいただいた。一律 1,000 円のバイキングで、手作り大豆料理が好きなものを好きなだけ頂けるという魅力に溢れた店内は、お昼時とあってか多くのお客様でいっぱいであった。お豆腐、味噌、揚げなどバラエティーに富んだメニューはどれを頂いても本当においしく、ご飯を「いただく」という気持ちが蘇ってきた。また、働いていらっしゃる女性の年齢層が大変幅広いということがとても印象的であった。農産物加工のグループと聞くと、どうしても年配の方だけで集まっている、というイメージを持ってしまっていたのだが、比較的若い方も、ベテランの方と一緒に働いているのを目にして、とてもすばらしいことだと思った。世代を超えたコミュニケーションがうまくはかれると、さまざまなアイデアが生まれ、何より手作りの食文化を伝承することが可能になる。容易なことではないと思うが大変重要なことであると感じた。まめやの加工品が週に 2 日学校給食に出されているとお聞きし、羨ましいと思いつながりながら食育や地域づくりにつながっているのだろうと思った。

おなかも心も満たされて、いよいよ「水土里ネット立梅用水」の現地視察と研修となった。まず歩いて「農村のビオトープ」の見学をした。周囲を木々に囲まれた休耕田を利用したビオトープには多くの生き物が生息しており、子供たちが触れることによって環境や生態系を考える機会となっていることをお聞きした。このような場所がないと触れることができない生物がいるということは残念なことだ感じたが、自然とともに生きることを肌で感じた子供たちはきっとその大切さを忘れず伝えていくだろうと思った。

立梅用水による地域づくりについての講習会では、地域資源の見直しと地域づくりにおける人々のかわり、そして行動をおこす始めの一步の重要性を学んだ。用水路をコンクリートにしてから、水のコントロールが容易になった反面、生き物が消えた。そして人々が用水路に関心を示さなくなっていくと共に地域活動が衰退していった。そこで「あじさい 1 万本運動」が始まった…。このような活動の歩みをお聞きし、地域づくりは新しいものをつくっていくことばかりにとらわれず、今ある資源やこれまであった資源を再度掘り起こし、最大限に生かすことで、より人々の愛着心を生み、ひとつになって進んでいくことができるのではないかと感じた。少しでも多くの人に関わることで活動が広がっていき過程を知り、やはり地域づくりのキーを握るのは人であることを再認識した。お祭りやあじさいの植樹などにこどもからお年寄りまでみんなで参加できる機会が多いことも魅力であった。あじさいが地域に増えればそれだけ人々のつながりも強く広がっていくのだと感じた。そしてこのような活動を起こした人がいた、ということが何よりもすばらしいと思った。新しいことを始めようとすると必ず反対意見の壁にぶつかる。しかし、危

機感を感じ、地域を良くしたいという強い気持ちを持った人々がいて、実際に行動に移したことが今につながっているのである。その第一歩がどれだけ重要かということを感じた。そして彼らはその活動を楽しむことで、それがほかの人々につながり、住んでいる人々が誇りを持てる地域づくりへと進化していくのだということ学んだ。

一通りの見学を終えて、宿泊施設「リバーサイド茶倉」に到着した。それぞれの部屋に分かれて一休みした後、バーベキューで親睦を深めた。参加者の皆さんはそれぞれ地域でご活躍されているため、地域づくりについて様々な考え方を教えていただいた。その後、経営者の山本氏から、この施設の経営とまちづくりへの思いを聞かせていただいた。何事にも熱意を持って自ら走り回ってより良いものを作ろうとしていく姿勢に感銘を覚えた。オリジナルのお茶入りうどん「茶倉物語」を作り上げたエピソードは大変印象的であった。

一日目は道中文化財等の見学もあった。中でも特に印象に残っているのは新長谷寺である。バスが何とか通れるような細い道を登り、更に急な山道を歩いて辿り着いたのだが、そのお寺を維持管理しているのがそこで暮す人々であるというお話をお聞きし、更に日本三観音のひとつ、御本尊の十一面観音を間近で拝ませていただいた。観音様を前に、お話をお聞きしていると今まで感じたことのない、何ともいえない気持ちを覚えた。玉井先生の懈怠さんげを聞き、そして自分を恥、感謝の気持ちを忘れずいつも穏やかな気持ちでいたいものだとつくづく感じた。

二日目はお天気にも恵まれ、斎宮歴史博物館、伊勢神宮(内宮垣内参拝)、おかげ横丁、神宮徴古館・神宮農業館と見学をした。始めて知ることが多く、大変興味深く、貴重な経験をする事ができた。

こうしてあっという間に全行程を終え、別れを惜しみながら無事帰路につくことができた。

今回の研修で私が得たもののひとつが人とのつながり、出会いであった。どの研修先でも地域を良くするためには人が重要で、一人では難しいことも、より多くの人を巻き込むことにより、可能となっているのではないか。その仕組みを作る第一歩を踏み出し、世代を超えて取り組めるようにすることが持続可能なまちづくりを実現するために必要だということもわかった。そして今回出会った受け入れ先の皆様および玉井先生や参加者の皆さんから多くのお話をお聞きすることで、私自身が様々な価値観に出会い、地域づくりに対するやる気と元気をいただいた。これらの経験を無駄にすることなく、今後も自分自身の活動に精一杯取り組んでいこうと思う。

最後に、玉井先生をはじめ、この研修旅行で出会った全ての皆様に心から感謝している。

(今回報告書を作成するにあたり、加筆・修正を行なった。)